

ぶんきょうくしょうがいしやちいきじりつしえんきょうぎかい
文京区障害者地域自立支援協議会

れいわ ねんど だい かいしょうがいたうじしやぶかい ようてんきろく
令和6年度 第2回障害当事者部会 要点記録

【日時】 令和6年10月18日(火) 10時～12時

【場所】 文京シビックセンター3階 障害者会館C会議室

【出席者】 高山 直樹 (自立支援協議会 会長)

志村 健一 (自立支援協議会 副会長)

河野 孝志 (身体障害)

竹間 誠次 (知的障害)

永野 栄一郎 (知的障害)

中山 雅美 (精神障害)

柳澤 由美子 (精神障害)

吉田 由紀子 (身体障害)

永尾 真一 (区委員)

【事務局】 関、荒木田、河井、谷本、林 (文京区障害者基幹相談支援センター)

【開会前に事務局からの連絡】

・出欠確認

・傍聴及び会議内容の公開について確認

・記録のため、会議内容の録音と写真撮影についての確認

・資料の確認

1. 開会挨拶

・障害福祉課長 永尾課長 より

2. 議題

(1) 防災体験と災害への備えについて【資料第1号、第2号】

(2) 障害者・児計画実績評価について【資料第3号、第4号】

(3) その他 全体会について

議題

(1) 防災体験と災害への備えについて 事務局より、資料第1号、第2号の説明

◆感想・意見

<当事者委員>

・池袋防災館の体験後に、自主的に「そなエリア東京」(臨海広域防災公園・防災体験学習施設)の体験に

参加してきた。通所先の避難訓練でも積極的に活動を行っている。意識の変化があった。

・入所しているグループホームにA E Dが設置されていないことに気が付き、気になっている。

・トイレの水がない場合に備えてビニール袋が必要。

・簡易トイレの用意をしているが、一度も使用したことがないので、実際に体験しておく必要を感じた。

本所防災館では水害の体験ができる。10 cm、15 cmなど浸水があった場合の体験ができる。別の防災館で

別の体験をすることも大事だと感じた。

→第3回当事者部会で民生委員との交流会でテーマとして行う。皆さんから意見が挙がった場合に確認できるように、担当の関係部署(防災課、福祉政策課職員)をゲストとして出席していただく。

当日、当事者の方から発言・発信してもらえるように、事務局が資料を作成し、志村会長から発言を振る。

事前に、事務局から各当事者委員には発言の確認を取る。

(2) 障害者・見計画実績評価について 事務局より、資料第3号、第4号について説明

地域支援フォーラムについて:

◆当事者委員の意見

・過去2回参加したことがある。生き方など参考になり、良い話を聞くことができた。障害当事者が聞くこともあるが、地域、多くの区民の方に聞いてもらえるといい。

・支援者とのインタビュー形式で自身の話をしたことがある。緊張したが思いを伝えることができ貴重な経験となった。皆さんに障害の理解を深めてもらえたらと思い話をした。

・参加して話を聞きたい。

・ご本人の体験談を聞く機会があった。病と戦いながら介護をされている方のお話で、自分も介護をしているので話を伺うことで感化された。当事者の方の意見・お話を聞けるのは貴重なこと、一人でも多くの方に聞いてもらいたい。

・地域支援フォーラムのことを知らなかった。参加することで、身体障害以外のことも知ることができる。

周知はどこでされているのか。

→ 掲示や広報などで周知されている。事前申し込みは不要なので、直接会場に行き参加できる。

・今まで知らなかったなので、これから参加したい。

心のバリアフリーハンドブックについて：

◆ 当事者委員の意見

・改定前に意見を求められ、記述内容で気が付いた箇所を何カ所か訂正してもらった。意見が反映されていて

嬉しかった。改訂版を出す時には必ず当事者の意見を訊く・確認することは大事だと感じた。今後も意見を

確認してもらえると充実した内容になると思う。

・イラストと文章のバランスが良く読みやすい。当事者のことをよく考えてできていると感じた。障害福祉に

関するマークについて知らなかったが理解が深まった。

・マタニティマークがどこで配られているかわからない。

→ 文京区では、保健サービスセンターや区民カウンターで母子健康手帳と一緒に渡している。また、駅の

窓口、空港のカウンター、妊娠出産関連の雑誌付録、ベビー服の店舗などでもらうことができる。

・心のバリアフリーハンドブックはどこで配布されているのか。

→ 障害福祉課窓口で配布しているほか、障害福祉啓発イベント及び、区内施設や区立小中学校等にも

配布している。また区のホームページにも掲載されている。

・パニック、適応、気分障害を抱えているが、気分障害について正しく理解されない、目に見えるものではない

ので、誤解を受けることがある。発達障害についての本はよく見かけるが、気分障害については知られていな

いので、取り上げてほしい。

・大変よい本ができた。小学校で配布されていることが判ったが、家庭に1冊あるとより理解が深まり良いと思う。

・21頁 音声コードの読み取りイラストがわからない。音声を取り込む写真がなにか判らない。上のイラストだと判るように「→」の表示があると判りやすい。改訂版は判りやすいという評価が多いが、自分にとっては判りにくい部分がある。

(3) その他 2月の全体会について

先に行なわれた自立支援協議会運営会議にて当事者による発表の依頼があった。

年間活動報告の他、当事者委員に、グループホームでの生活について、防災について、切目のない生活について(半生を語る)話をしてもらいたい。

→活動報告、グループホームでの生活、防災については自薦他薦により決定。

3. 閉会の挨拶

・自立支援協議会 高山会長 より

地域支援フォーラム、ハンドブック、全体会など、区民に障害の理解を深める、広めていくことに、部会の役割がある。バリアフリーハンドブックを各家庭に配布するだけでなく、どう読んでもらうか理解してもらうか、ハンドブックの活用方法を考える必要がある。ハンドブックを見ることで、たとえば精神障害の全体はわかるが、発達障害・気分障害などそれぞれの障害についてまでは書かれていない部分もある。当事者の皆さんから状況や経験を含めて伝えて頂くことができるのではないかと、そのような活用をしてほしい。

防災について、薬の問題、避難所の問題、A E Dなど皆さんから挙げられた意見は、障害のある方だけの

問題でなく、区民全ての方にも共通している課題でもある。皆さんが発信することで影響を与えることができ、区民の方に還元できることになる。

障害の理解が伝わるのは、生活のしづらさである。色々な場面で生活のしづらさがあること、障害があることでどんな生活のしづらさがあるか、どんな支援が必要なのかを訴えることで、制度に繋がったり、コミュニケーションにも繋がっていく。文京区で生活し、街を歩き移動し、感じていること、災害についての不安、必要な支援など生活のしづらさについて発信してほしい。

4. 事務連絡

障害福祉課より) 第20回共生のための文京地域支援フォーラム 11/26(火)

区報11月10日号にて掲載

事務局より) 障害者虐待防止講演会 12/8(日)

第3回 障害当事者部会 1/17(金)